

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500115		
法人名	株式会社愛ホームサービス		
事業所名	グループホーム愛上沢		
所在地	神戸市兵庫区下沢通8丁目2-20		
自己評価作成日	令和5年1月	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和5年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様お一人お一人に寄り添ったケアを実現させるために職員が努力しています。ご家族様の意向も取り入れ、リモート面会、ライン、手紙などで交流しています。職員同士のコミュニケーションもとれ、働きやすい環境、子育てしながら働いたり、勤続年数が高い職員も多いです。

企業の理念は、一人一人の尊厳を守り個々の利用者を大切に・利用者本位のケアを提供・居心地の良さを保つですがホーム独自の目標を作り、一人一人に寄り添った専門的ケアを提供する。調和を大切にしようとして、職員間もお互い助け合い、働きやすい環境となっている。12月と2月にコロナの罹患者がりましたが、外部へはリモート面会・ライン・手紙等で交流し、家族の要望には対応出来ており、安心されている。今後コロナ終焉時には地域との交流も活発となり、地域との信頼が得られる様に期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりに寄り添う専門的ケアを提供することに務めることを目標としています。コロナ禍の中、家族と会うことが少なくなっていますので、施設内だけでも職員と家族のような関係を築けるように努めています。	法人の理念「一人ひとりの尊厳を守り個々の利用者を大切にする。」「利用者本位のケアを提供する」「居心地の良さを保つ」に基づき「調和を大切にしよう」を事業所理念を掲げ、2ユニット心をつつにして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、地域への発信や交流はできていないが、自治会長、民生委員の方などとコミュニケーションをとり、いつでも動き出せるように準備をしています。	コロナ禍で、地域との付き合いはほとんど中断されているが、自治会長や民生委員の方とはコミュニケーションをとるようにしている。地域のごみ収集場の掃除をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方の相談にのっています。事業所のデイルームを地域の為に使用出来ないか、又、使用出来るよう環境整備をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が代わり、一から参加して頂ける方の要請、家族様との信頼関係に努めています。事業所独自の何かを考えたいです。	コロナ禍で運営推進会議は中断されている。今後、開催するためのメンバーとして、自治会長と民生委員へは声掛けを行い、了承していただいている。今後、あんしんすこやかセンター、家族、他グループホーム管理者などへの参加要請をして、新たにメンバーを開拓していくとしている。事業所独自の運営推進会議を開催していく為に、立案をどのように実現できるかの情報収集に努めている。	コロナ禍、管理者の交代もあり、3年間会議が開催されていない。現在、事業所独自の魅力ある会議にすべく立案中である。一日でも早く会議が開催され、意見をいただきながら、利用者・家族に更に喜ばれる運営をされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年、利用者様に初めてコロナ陽性者が発生、保健所の方に色々アドバイス、今後のご協力など、終息後、沢山話す事が出来ました。	市からはメールにてコロナ関連の情報を得ている。感染発生後、市から抗原キットの支給があり、休業給付金の申請等で協力していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	神戸市の指導の下、年2回の高齢者虐待防止の研修にて理解に努めています。	年2回の研修時には身体拘束関連のアンケートを行っている。スピーチロック等、知らず知らず行われてしまう不適切ケアについて話し合いがなされている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と共に、管理者も指導する側として研修を受けており、職員にも共有しています。	年2回の研修を行っている。管理者は虐待防止の指導者としての研修を受け、職員への指導を行っている。職員のストレスに対しては、出来るだけコミュニケーションを取ると共に、面談、フロア会議などで悩みを共有するようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用されておられる入居者様もおられますので理解し、必要と判断された場合は連携が取れる準備は出来ています。	成年後見制度を利用されている方は1名おられ、後見人(司法書士)と連携し、支援している。管理者研修にて成年後見制度を学び、職員へは日常の業務の中で制度について説明している。表見代理、子供だから当然と思わず、契約時などに取り入れていきたいとしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談で十分に情報、コミュニケーションをはかり、不安など話せる関係性を作れるよう努めています。	事業所からは、重度化した場合の対応について重度化・看取り指針に基づいて詳しく説明し、同意を得ている。専門病院への家族による受診が可能なかを確認している。家族からの質問では、コロナ禍においては、面会のことや外出の質問が多かった。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、入居者様の意見、ご要望、苦情は傾聴し、速やかに対処できるよう努めています。	利用者の意見や要望(食べ物や外出等)は日常のコミュニケーションの中で聞いて実現するようにしている。家族の要望は面会時や受診時に聞くようにしている。家族の面会の要望に対しては神戸市の情報を踏まえ、感染対策等ルールを決め対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、フロア会議を行い聞いています。又、管理者会議、経営会議で報告、共有しています。	リーダー会議やフロア会議で職員の意見や要望を聞いている。また、管理者は職員と個人面談を随時行い、意見や要望を聞くようにしている。近況では入院された利用者の受け入れの検討において職員の意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は経営会議などの機会に応じて状況の把握に努め、環境整備、頑張りを賞与に反映し、向上心を持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量、やる気に応じて研修を受けさせています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は中々難しい状況ですが、同事業所4か所の交流の機会を設けています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、ご本人の生活歴、習慣などの情報を聞き取り、ホームの生活に反映出来るよう努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にとっての入居者様を理解し、時間を十分取り、傾聴し信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が一番あるべき姿でいられる環境を見極め、入居を前提には考えないように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の時間に合わせながら、自立支援に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	短い時間ではありますが、面会、リモート電話、散歩など、今出来る最善の時間を提供出来るよう努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において難しい状況ですが、馴染みの場所などの話を職員、他入居者様としています。	月1回写真入り新聞を家族に送付している。現在、リモート電話を利用されている方は4名おられる。今後、事業所での様子をリアルタイムで送れるラインでのやりとりを予定している。今年からは正月の外泊や家族と共に馴染みの美容院や喫茶店への外出も可能になった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関り合いの時間を大切に考えています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大切にしています。近くにお越しの際は立ち寄って頂けるような関係を保ちたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今は外出の機会などは難しいですが、日常の会話から意向を引き出し、出来る限り実現出来るよう努めています。	日常のコミュニケーションを大切にすることで思いや意向の把握に努めている。テレビ観覧中のつぶやき(これ食べたいなあやドライブに行きたいなど)を大切にとらえ、希望が実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報、家族様からの情報などから今の生活に活かせるよう支援する上で役立つと考えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック、体操などから心身状態を把握しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人から十分話を聞き、家族様にも意向などを傾聴している。今、カンファレンスは職員とケアマネでしている。	介護計画は家族・利用者・ケアマネ・職員と打ち合わせをし短期6ヶ月・長期1年で作成し利用者に体調変化があれば即見直しをし、モニタリングも日々チェックをし、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の必要性を職員が理解し、記入するよう指導に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでは出来ない訪問リハをお願いしたりしています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な地域支援を把握し活用できるよう努めます。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診の他、緊急、困った時など、いつでも連絡が出来、安心しています。	かかりつけ医は全員ホームの担当医で内科は月2回、歯科は月1回でその他の科は基本家族対応で職員も対応する時もある。医療は24時間・365日対応で家族も安心されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、又、いつでも連絡、相談出来、アドバイスして頂いています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の紹介による病院の予約、紹介状を書いて頂いています。又、ケースワーカーとの連携に努めています。	入院時にはかかりつけ医とよく相談し、家族が決めている。入院時にはホームのデータを知らせ、入院中は連絡を取り合い、退院時には医療連携室と連絡を取り合い支援に反映させている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、又、終末時に改めてご家族様に意向を聞き、出来る限りの支援に努めています。	家族・利用者・と重度化・看取りに対する同意書に基づきよく説明し同意を得ている。最近には2例の看取りも経験し、研修も行われ体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	備えています。目につく所にマニュアルも貼っています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難所の確認、自治会長とは普段からコミュニケーションを取って協力体制を取っています。	年2回の訓練を実施し、消防者の指導と自主訓練で、ハザードマップでは火災が重要との事で訓練に当たっているが、地域の方の参加はない。今後運営推進会議を通じてお願いをしていただきたい。備蓄は7日程されており、その他避難場所の設定をし(福祉場所)決めて頂きたい。	地域の方の訓練への参加がされていない。運営推進会議を中心に(利用者の見守りをする)協力を頂き、地域と一体とした訓練をするようお願いしたい。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊厳、不適切なケアの研修を虐待研修と共に学んでいます。	利用者は目上の方で、尊厳とプライドを損なわなき様に日々の支援に当たっている。職員間も何かあればお互いに注意し合える体制であり、個人情報の管理も厳重にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面ではゆっくり本人の時間に合わせ押しつけにならないよう行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人らしい生活、あるべき姿を考え希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容もおりますが、家族様と美容室に行かれる方もおられます。朝はしっかり鏡を見ていただき身だしなみを整えて頂いています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を手伝って頂いたり、食れくで普段の食事では出てこないメニューを考えています。	食材は外部業者で、配達された物を湯煎し提供されている。業者とは月1回打ち合わせをし、問題があれば要望し改善している。又要望等は食事レクにて行い満足された食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい入居者様もいらっしゃいますが、回数を分けたり、工夫し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と寝る前の方がほとんどです。月に1度の訪問歯科の指導を受けています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援しています。	排泄は体調管理表にて時間少し前にトイレへと廻りに配慮して誘導している。夜間は睡眠第一に個々により対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の個々の状況を把握し、便秘解消に努めています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を取り、職員との良いコミュニケーションの場にもなっています。	入浴は、週2回を基準に楽しく会話もしながら楽しい時間を過ごしている。季節によっては家族からのさしいれの柚子を入れ季節感を味わっている。機械浴は無いが2人介護の方もあり、その他清拭の方もあり、全員清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も、休息を取って頂いたり、夜間の環境整備、不安解消のための傾聴に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の先生が親会社の方なのでコミュニケーションが取れるので安心しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来る事はどんどんして頂き、趣味や嗜好品など入居前の生活を出来るだけ変えないよう努めています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は出来ていないのが現状です。家族様との散歩、外出は感染対策を徹底して頂き了承しています。	コロナ禍で外出制限されているが、出来るだけ外気浴・季節感を求めて屋上スカイテラスの花々を愛で、歩き元気をもらっている。早く元どうりに回復する事を待っている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援も今は出来ていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もおられますし、希望があれば取り繋ぎさせていただいています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたディスプレイを一緒に作っています。足置きなども利用者様と作っています。	共用部分は広く・明るく・毎日2回清掃し清潔にされている。テーブルには職員の家庭より季節の花が、周りの壁には利用者で作成した飾り物が光りを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは思い思いに編み物されている方、新聞を読んでおられる方、お話されている方がおられます。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真があったり、レクリエーションで作った物なが飾られています。仏壇を持って来られている方もおられます。	利用者よりは仏壇・家族の写真・人形・飾り物等が持ち込まれ、ホームよりはベット・空調・カーテン・クローゼット・2階にトイレ・ナースコールが設置され過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室には写真を貼ったり、トイレにも離れても分かるよう工夫しています。		

基本情報

事業所番号	2890500115
法人名	株式会社愛ホームサービス
事業所名	グループホーム愛上沢
所在地	神戸市兵庫区下沢通り8丁目2-20 (電話) 078-512-5107

【情報提供票より】(令和5年 1月 30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成24年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14名	常勤 9名	非常勤 5名 常勤換算 13.8名

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての2・3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円	
敷 金	150,000 円	管理費 10,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4)利用者の概要(令和5年1月30日現在)

利用者人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	80歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	奥地外科医院 本間整形外科 つくしデンタルクリニック
---------	----------------------------

(様式2(1))

事業所名 グループホーム 愛・上 沢

目標達成計画

作成日 令和5年3月31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	人員不足もあるが業務を先に考えてしまう。	利用者の事を第一に考える環境作り	フロア会議を定期的に行う。管理者も現場に入る。	3ヶ月
2	9	家族様とのつながり。	リモート・ライン活用の定着化。	慣れていない職員に指導。	3ヶ月
3	10	研修(定期の実地)	計画的に行えるようにする。	計画書を作成する。	2ヶ月
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。